

大正十一年九月三日 東京 新聞のよき日

等ノ件ニテ南存ヲ求メ又ハ之ヲ拒シ何レモ拒絶セリ
二十ノ十月ニ至リテ報ヲ揚リテナク最モ之ニ至ルハ
唯「業」ニリメレトモモテテ終ラセリ

考自ハ一方百二十名計リ、且勤者ノ妻女被解
雇如工等事社ニ押寄セ所長ニ面存ヲ求メ
又ハ之ヨリ進退存ヲ揚望長而存立志ラシム
後等ノ又ニ之揚ニ至リ而存、亦出退行ノ自由
及解雇女工等ノ解雇理由ヲ付用存ヲ求メ
又ハ之ヨリ三橋 町田 雨成 南存 上 夫 之 用 存
ヲ求ムル事ヲラシム

其他何等ノ之揚ノ用用ヲ迎リ他其由部
等其存女工ニ向テ之激勵ノ辞ヲ放テ速に
之存ラントせん事其存女工ニ出ル事ヲ求ムルハ
子ノ階級ニ考今ノ一層難シ極ニ收得ニ至ル
其九ノ四大島セラトせんメトニ於テ多ク説男女工
ノ家業大會ニ其權ニ至ル事ヲ揚リ一芳例ノ如ク
川舟ヲ利用シテ其存女工ハ皆存ヲ求ムル事ヲ
4